

10

October

2008 NO.644



新・永住宣言
～来て！見て！住んで！～
や・ま・き・た

広報

やまきた



特集

山北町立小・中学校 統廃合のあり方検討会 中間提言

山北町のホームページ

<http://www.town.yamakita.kanagawa.jp>



総合防災訓練

今月の表紙

カレーの炊き出し

山北町立小・中学校統廃合の

あり方検討会 中間提言

学校統廃合による新しい学校・

教育・まちづくりを検討します

「学校統廃合を進める方向で検討」

― 今後最終提言を取りまとめ ―

昨年10月に設置された山北町立小・中学校統廃合のあり方検討会からの中間提言が、9月12日付けで町長に提出されました。この中間提言は、今年5月に実施した教育環境アンケートの結果やこれまで10回にわたる検討会での議論を整理したもので、「学校統廃合を進める方向で検討していく」としています。また、検討会は今後、検討課題の整理や具体的な内容を検討し、小・中学校統廃合のあり方の最終提言をすることとしています。委員の方々の真剣で熱のこもった議論について、現段階で整理した中間提言（全文）を、町民の皆さんにお知らせします。

この中間提言は、検討会での考え方の方向性を整理したもので、最終的な結論ではありません。今後、町では最終提言が町に提出された段階で、町としての計画を策定する予定です。なお、本中間提言に関するご意見等がありましたら、検討会の委員または政策室（電話75-3651）までお寄せください。

はじめに

昨年（平成19年）10月に発足した当検討会は、本年8月28日には第10回目を開催しました。各自治会や学校・園のPTA・保護者会から選ばれた委員と学識経験者の計17名が、山北町の教育の根幹にかかわる学校統廃合の是非やその進め方について、1年近く議論を積み重ねてきました。当検討会は、検討事項の重要性に鑑み、拙速な議論を避けるために期限を切らずに検討を進めています。検討会でのような議論を行っているかについて、情報提供や広報を求める町民の皆さんの声もあり、ここにこれまでの議論を「中間提言」として整理しました。

1. 検討の経過

① 「統合ありき」ではない
ところからのスタート

当検討会の名称が「学校統廃合のあり方検討会」となっていることから、第1回目からその名称をめくって、活発に意見交換が行われました。すなわち、検討会は学校の統廃合を前提として議論する会議なのか否かという点についてです。議論の末、「統廃合ありきではなく」「統廃合の是非も含めて検討していく」という当検討会の基本姿勢を確認しました。

また、当検討会の委員は個人として出席するのか、選出母体である自治会やPTA等を代表するのかという点についても、検討を始めるにあたって意見交換を行いました。その結果、選出母体での意見を検討会で紹介するなど、検討会と地域や団体のパイプ役となることが期待されながらも、基本的には個人として当検討会に出席し、個人の責任において検討会で発言することが確認されました。

2回目以降の検討会の内容については、別表のとおりです。神奈川県下ですでに学校統廃合を実施している箱根町、旧藤野町（現相模原市藤野町）の事例について検討したほか、小規模校でありながら統廃合しない方向で取り組んでいる市町村の事例に関

する情報の共有なども行いました。

(2) アンケート調査の実施と

その結果について

その中で、検討会は、保護者や地域の皆さんが現在の山北町立小・中学校の学級規模や児童数についてどのように考えているのかを把握するために、教育環境に関するアンケート調査を本年5月に実施しました。

アンケート調査は、町内の小・中学校児童・生徒の保護者および未就学児（6歳未満）の保護者の全世帯と、中学生以下の子どもがいない世帯のうち1000世帯を抽出して、1,798世帯を対象に実施しました。956世帯(53・2%)の保護者・住民の皆さんから回答をいただきました。

結果は、地区や年齢により回答の傾向が大きく異なり、統廃合に関する考えが多様であることを示しています。例えば、全体で64・8%の方が、児童・生徒数が今後も減少していくことに対して、「何かしらの対策を講ずるべきである」と答えています。また、小・中学校の規模（1クラスの子数・生徒数や各学校の総児童・生徒数）について、「少ない」と答えた方が全回答者956名中492名(51・5%)いました。「少ない」と答えた方のうち、小規模化の対策（複数回答可）として「学校統廃合」を選択した方が335名(68・0%、

全回答者956名中では35・0%、「定住化対策」を選択した方が292名(59・3%、全回答者956名中では30・5%)となっています。

地区によってこれらの数字は異なりますし、数字をどのように見るかも、委員の間で議論となりました。

「学校統廃合の明確な傾向が出ていない」という見方のほか、「学校統廃合を求める人がこれだけいることはそれなりの重みがある」などの意見がありました。

アンケート回答用紙の自由記述には多くの貴重な意見が寄せられました。アンケート自体や質問項目に対する批判もありましたが、まちづくりや学校・教育づくりに関わるさまざまなアイデアの提供や要望があったほか、児童・生徒の通学手段に関しては、多くの方から改善を求める意見と「統廃合の場合はスクールバスを出してほしい」という強い要望がありました。

(3) 各委員の意見の集約

学校統廃合の先行事例の検討やアンケート調査の結果などを参考に、本年7月の第9回目の検討会で全委員が意見を出し合い、学校統廃合の是非や今後の検討のあり方について議論しました。

委員の意見は、小規模校のメリットやデメリットを整理して、学校統廃合の必要性の有無や統合しないと

いう現状維持の可能性について、今後も継続して議論すべきであるという意見と、学校統廃合の方向性で議論を進めるべきという二つの意見に分かれ、学校統廃合の方向性を求める委員が約3分の2を占めました。

2. 学校統廃合と方向性について

(1) 学校統廃合による新しい

学校・教育・まちづくり

以上のような議論と意見の集約を踏まえて、当検討会では、委員一人ひとりが意見を出し合って議論した結果、今後、学校統廃合による新しい学校・教育・まちづくりをすすめる方向で検討することとしました。

こうした方向性に、当検討会委員全員が賛成しているわけではありません。学校統廃合の必要性の有無や是非についてさらに議論を継続すべきであると考える委員もいます。また、町の考え方が明示されていない現状で、検討会で議論しても意味がないのではないかという意見もありました。しかしながら、一方で、「町民や保護者にもアンケート調査等で協力していただいたのだから、それをもとに検討会としても一定の方向性を出す時期ではないか」という意見もありました。

以上のように、検討会の全委員の

意見が一致したわけではありませんが、現段階での委員の多数意見に基づき、学校統廃合を進める方向で検討することとしました。

(2) 学校統廃合を進める理由

本検討会の委員が示した学校統廃合を進めるべき理由は、主として以下の3点にまとめられます。

まず第一に、山北町の人口減、児童・生徒数の減少に対応して、一定規模の集団のなかで子どもたちを教育するためには、学校統廃合はやむを得ない選択だと判断しました。小規模校や小規模学級の場合、子ども一人ひとりに先生の目が行き届くなどのメリットはありますが、極端に児童・生徒数が少ない場合には、性別が偏ったり、集団づくりが困難になるなど、子どもの人格形成に不足が生じる可能性があります。



町長に中間提言書を手渡す野元会長と井上副会長

とりわけ、中学校については、小規模校ゆえに部活動などの集団的な活動が制約を受けたり、教科専門の教員の配置ができないなどの課題が生じているとの指摘もあり、学校統廃合によって学校・学級規模を大きくすることが急務と考えます。

第二に、学校統廃合によって生じる学校関連予算を、学校等の修理や改築のほか、新しい学校・教育づくりに支出して、山北町の教育環境充実に活かしたいと考えます。アンケート調査では、山北町の学校施設の整備が不十分だとする不満も出ています。

第三に、学校統廃合をまちづくりの契機としてとらえたいと考えます。検討会の議論においても、アンケート調査においても、人口減や少子化対策として、魅力あるまちづくりを進めることが重要であるとの意見が多くあり、学校統廃合を教育環境の整備と魅力あるまちづくりの契機としてとらえてはどうかと考えます。学校や教育のあり方を見直し、特徴のあるカリキュラムの実施や廃校利用を通じた新しい教育環境づくりを進めることで、町の活性化を進めることも可能と思われま



3. 学校統廃合や配置について

学校統廃合を実施する際の学校の数や位置については、これから検討会としての最終的な考えをまとめる予定ですが、現段階で検討会の委員から出されている案やアイデアの概要は次のとおりとなっており、これらをもとに最終案を作成したいと考えます。

小学校については、児童数減を考えると1校にした方がよいという意見がありますが、山北町の地理的条件を考慮すると、2校〜3校程度がよいと考えます。仮に1校に統合すると、最も遠い児童は、スクールバスを使っても約1時間近くの通学時間を要することとなります。

2〜3校をどこに配置するかは未定ですが、町は大きく山間部と平野部の二つに分かれることから、山間部の子どもたちの条件を考慮して、統合小学校の1校は山間部に設置する方向で検討します。川村小学校高松分校については、通学手段を確保して、できるだけ早く本校に統合すべきと考えます。

中学校については、1校に統合した方がよいという意見が多数ですが、小学校と同様に山北町の地理的条件を考慮すると1校は無理があるとの意見もあるため、現山北中学校

用地に1校置くほか、三保中学校が清水中学校用地に1校を設置する可能性についても検討します。

このほかに、既存の施設ではなく、新たな用地を確保し新しい学校を建設して統合する案や、小学校と中学校の統廃合を個別に考えるのではなく、小中一貫校を設置して、特徴ある教育プログラムを実施するという案などについても検討します。

なお、統廃合に際しては、既存の学校施設等を利用して新しい学校を設置するという考え方で臨みます。したがって、すべての小・中学校はその歴史を閉じて、新たな学校に生まれかわることになります。

4. 統廃合にあたっての諸条件について

① 通学手段の確保

検討会は、学校統廃合にあたっては、遠距離通学となる可能性のある児童・生徒の通学手段をきちんと確保することが重要であると考えます。アンケート調査において、通学手段を心配する保護者や地域住民の方が多く、検討会でもスクールバス等を保障することが統廃合の条件ではないかという意見が多数となっています。

② 学区の弾力化

小学校、中学校のいずれにおいても最終案では複数校となる可能性がありますが、その際、学校規模に大きな差が生じる可能性があります。そこで、住む地区によって不公平感が生じないように、学区の弾力化も含めた対応策を検討していきます。

③ 児童・生徒の心のケア

統廃合にあたっては、通っていた学校がなくなるなど、子どもたちが急激な環境の変化に戸惑うことが予想されます。したがって、児童・生徒の心のケアをしっかり行うことが必要です。とりわけ、近隣の規模の大きな学校に通うこととなる児童・生徒が、新しい環境にしっかりと適応できるように、旧学区の教員が児童・生徒に合わせて異動するなどの人事上の工夫が必要だと考えます。

⑤. 最終提言に向けて

— 今後の検討課題 —

① 学校数と配置について

最終提言に向けて、統廃合後の小・中学校数と配置場所について、具体的に検討します。その際、次の2点のポイントに注視して検討したいと考えます。

一つは、山北町の地理的条件をどのようにとらえ、どこに設置するのが最も子どもたちの負担にならない

が検討します。

もう一つは、保護者を含む地域が、統廃合に対してどのような立場で臨むかです。すでにアンケート調査において意見の傾向を把握することはできますが、今後は、住民による地域での話し合いの結果や意見を参考にしながら、学校数と配置場所を決めていきたいと考えます。

② 過去の取り決め等について

過去に、県などの地方自治体や公共機関が、地域開発や産業振興をすすめる際に、地域の小・中学校の存続について自治会などと約束や取り決めを交わしてきているという指摘が委員からあります。小・中学校数と配置場所を検討するには、こうした過去の約束や取り決めをどのように扱うかがたいへん重要となりますので、今後、検討会では、三保ダム建設時の事例を中心にその扱いを検討したいと考えます。

③ 跡地利用について

統廃合後の跡地利用についても、統廃合と同時に検討していきたいと考えますが、小・中学校は、長い間、地域の文化センターとして機能してきているので、その跡地利用については、地域の皆さんの考え方やアイデアを大事にしたいと考えます。検討会では、具体的な案作りを行うより、小・中学校統廃合の跡地利用に関する優れた実践事例を紹介

するなど、地域での話し合いの際に参考になる情報提供や考え方の提示を行うことに重点をおきたいと考えます。

④ まちづくり

昨今の児童・生徒数の減少の背景には、全国的な少子・高齢化があることは否めませんが、近隣の他の市町村と比較すると、山北町は町として適切な活性化策を講じていないのではないかという意見が多数出されています。学校統廃合を進めるだけではなく、同時に若者の定住化や少子化対策などの町の活性化のための対策を講じることが必要と考えます。

⑤ 町民への広報について

学校統廃合は、山北町の子どもたちには言いつに及ばず、町と地域の将来にも関わる重要なテーマでもあり、慎重に議論することが望まれます。とりわけ、町民への十分な広報や説明が行われることが重要です。広報や説明がどのように行われるべきか、地域での懇談会の開催なども含めて、町に提言できるように検討していきたいと考えます。

また、町行政としても、当検討会の検討状況も含め、今後町民に対する十分な説明または情報提供を望みます。

あとがき

当検討会は、今後、最終提言に向けて話し合いを続けていきますが、何よりも大事なことは、検討会の委員だけではなく、子どもも含むすべての町民が、今後の山北町の教育のあり方に関心をもち、どのような学校・教育・まちづくりが可能かについて話し合うことではないかと考えます。

○ 検討会での協議の内容

第1回 10月22日

正副会長の選出、進め方について

第2回 11月22日

学校統廃合に関する講演と質疑

第3回 12月20日

検討の進め方について

第4回 1月21日

町広報原稿の検討と先行事例の

第5回 2月21日

検討(箱根町)

第6回 3月24日

アンケート調査項目の検討

第7回 5月16日

先行事例の検討(旧藤野町)

第8回 6月26日

アンケート調査の結果と分析

第9回 7月31日

全委員が提出した意見メモをもとに議論

第10回 8月28日

「中間提言」(案)について

○ 検討会委員名簿(敬称略)

会長ー野元弘幸(首都大学東京准教授)、副会長ー富山基録(共和連合自治会)、井上俊之(三保小中学校PTA)、委員ー小川洋一(山北連合自治会)、中村義治(岸連合自治会)、岩本兆幸(向原連合自治会)、尾崎政男(清水連合自治会)、高橋常一(三保連合自治会)、井上淳(川村小学校PTA)、瀬戸直美(共和小学校PTA)、岩井清一(清水小中学校PTA)、瀬戸秋次(山北小中学校PTA)、湯川操(三保幼稚園保護者会)、山崎光代(清水保育園保護者会)、善浪邦雄(人権擁護委員)、佐藤昌司(行政経験者)、岡部達也(社会教育委員会議)



教育環境アンケート調査報告 ～その①～

町の教育環境の現状や将来について、山北町立小・中学校統廃合のあり方検討会が今年5月に実施した、教育環境アンケート調査の集計ができましたので、前記中間提言に関係する項目の概要（一部）をお知らせします。なお、そのほかの項目については、次号でお知らせします。

○地区別・世帯別回収数

地区	配布数		回収数		回収率	
	合計	子どもなし	合計	子どもなし	合計	子どもなし
山北	630	362 268	320	141 179	50.8%	39.0% 66.8%
向原	456	248 208	191	88 103	41.9%	35.5% 49.5%
岸	436	228 208	194	83 111	44.5%	36.4% 53.4%
共和	35	24 11	17	8 9	48.6%	33.3% 81.8%
清水	151	85 66	109	47 62	72.2%	55.3% 93.9%
三保	90	51 39	53	22 31	58.9%	43.1% 79.5%
未記入			72	34 38		
合計	1,798	998 800	956	423 533	53.2%	42.4% 66.6%

※上段：中学生以下の子どものいない世帯
下段：中学生以下の子どものいる世帯



調査の対象・方法と回収数

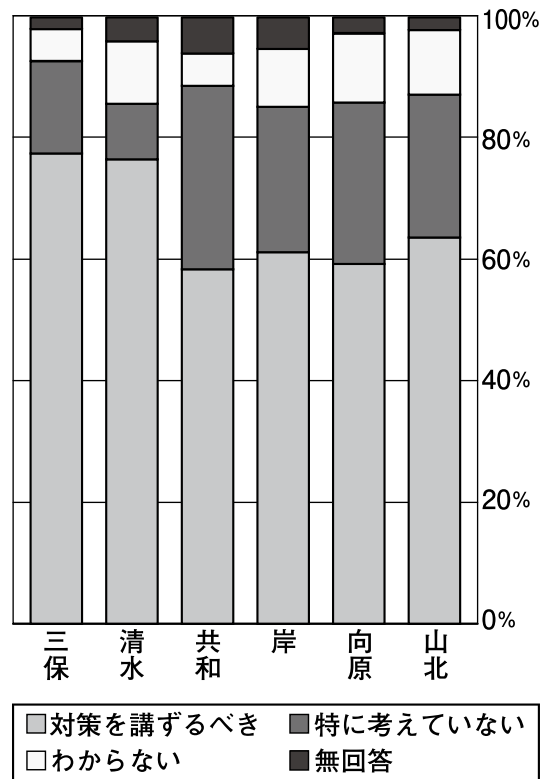
調査の対象	町内の小・中学校児童・生徒の保護者および未就学児（6歳未満）の子どもを持つ保護者	中学生以下の子どもがいない世帯のうち世帯数の比率により、地区別に1000世帯を抽出。2通が未達。
対象数	800世帯	998世帯
配布回収方法	自治会を通じて配布と回収	郵送による配布・回収
有効回収数	533	423
有効回収率	66.6%	42.4%

アンケート調査の内容

- ・ 児童・生徒数の減少に対する対応
- ・ 学校統廃合を選択した場合の学校数と配置
- ・ 統廃合に関するアイデアや意見
- ・ 現在の教育環境について、不満や対応策など
- ・ 通学手段と通学時間

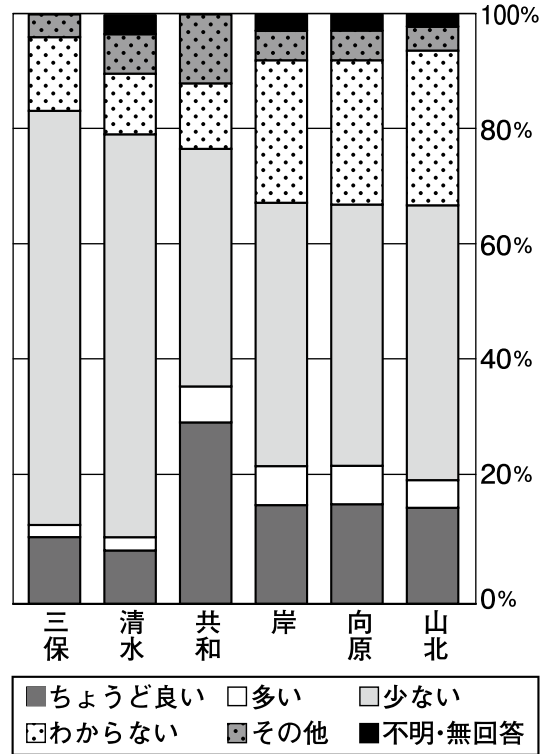
地区		対策を講ずるべき	何も考えていない	わからない	無回答	計
山北	子どもなし	94 (66.7%)	20 (14.2%)	23 (16.3%)	4 (2.8%)	141 (100.0%)
	子どもあり	108 (60.4%)	46 (25.7%)	21 (11.7%)	4 (2.2%)	179 (100.0%)
	計	202 (63.1%)	66 (20.6%)	44 (13.8%)	8 (2.5%)	320 (100.0%)
向原	子どもなし	54 (61.4%)	18 (20.4%)	13 (14.8%)	3 (3.4%)	88 (100.0%)
	子どもあり	59 (57.3%)	32 (31.1%)	9 (8.7%)	3 (2.9%)	103 (100.0%)
	計	113 (59.2%)	50 (26.2%)	22 (11.5%)	6 (3.1%)	191 (100.0%)
岸	子どもなし	57 (68.7%)	16 (19.3%)	6 (7.2%)	4 (4.8%)	83 (100.0%)
	子どもあり	61 (55.0%)	31 (27.9%)	12 (10.8%)	7 (6.3%)	111 (100.0%)
	計	118 (60.8%)	47 (24.2%)	18 (9.3%)	11 (5.7%)	194 (100.0%)
共和	子どもなし	5 (62.5%)	2 (25.0%)	0 (0.0%)	1 (12.5%)	8 (100.0%)
	子どもあり	5 (55.6%)	3 (33.3%)	1 (11.1%)	0 (0.0%)	9 (100.0%)
	計	10 (58.8%)	5 (29.4%)	1 (5.9%)	1 (5.9%)	17 (100.0%)
清水	子どもなし	34 (72.3%)	6 (12.8%)	5 (10.6%)	2 (4.3%)	47 (100.0%)
	子どもあり	49 (79.0%)	4 (6.5%)	7 (11.3%)	2 (3.2%)	62 (100.0%)
	計	83 (76.1%)	10 (9.2%)	12 (11.0%)	4 (3.7%)	109 (100.0%)
三保	子どもなし	18 (81.8%)	3 (13.6%)	1 (4.6%)	0 (0.0%)	22 (100.0%)
	子どもあり	23 (74.2%)	5 (16.1%)	2 (6.5%)	1 (3.2%)	31 (100.0%)
	計	41 (77.3%)	8 (15.1%)	3 (5.7%)	1 (1.9%)	53 (100.0%)
未記入	子どもなし	27 (79.4%)	5 (14.7%)	2 (5.9%)	0 (0.0%)	34 (100.0%)
	子どもあり	25 (65.8%)	11 (29.0%)	1 (2.6%)	1 (2.6%)	38 (100.0%)
	計	52 (72.2%)	16 (22.2%)	3 (4.2%)	1 (1.4%)	72 (100.0%)
合計	子どもなし	289 (68.3%)	70 (16.6%)	50 (11.8%)	14 (3.3%)	423 (100.0%)
	子どもあり	330 (61.9%)	132 (24.8%)	53 (9.9%)	18 (3.4%)	533 (100.0%)
	計	619 (64.8%)	202 (21.1%)	103 (10.8%)	32 (3.3%)	956 (100.0%)

問 推計では、児童・生徒数が今後さらに減少していくと予測されますが、そのような状況に対して、どのように考えますか。



地区		ちょうど良い	多い	少ない	わからない	その他	不明	無回答	計
山北	子どもなし	15 (10.6%)	5 (3.6%)	66 (46.8%)	46 (32.6%)	7 (5.0%)	0 (0.0%)	2 (1.4%)	141 (100.0%)
	子どもあり	32 (17.9%)	11 (6.1%)	85 (47.5%)	39 (21.8%)	7 (3.9%)	1 (0.6%)	4 (2.2%)	179 (100.0%)
	計	47 (14.7%)	16 (5.0%)	151 (47.2%)	85 (26.5%)	14 (4.4%)	1 (0.3%)	6 (1.9%)	320 (100.0%)
向原	子どもなし	6 (6.8%)	6 (6.8%)	42 (47.7%)	28 (31.8%)	3 (3.4%)	1 (1.2%)	2 (2.3%)	88 (100.0%)
	子どもあり	23 (22.3%)	6 (5.8%)	45 (43.7%)	20 (19.4%)	6 (5.8%)	1 (1.0%)	2 (2.0%)	103 (100.0%)
	計	29 (15.2%)	12 (6.3%)	87 (45.6%)	48 (25.1%)	9 (4.7%)	2 (1.0%)	4 (2.1%)	191 (100.0%)
岸	子どもなし	10 (12.1%)	2 (2.4%)	47 (56.6%)	14 (16.9%)	5 (6.0%)	0 (0.0%)	5 (6.0%)	83 (100.0%)
	子どもあり	20 (18.0%)	9 (8.1%)	54 (48.7%)	20 (18.0%)	7 (6.3%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	111 (100.0%)
	計	30 (15.5%)	11 (5.7%)	101 (52.0%)	34 (17.5%)	12 (6.2%)	0 (0.0%)	6 (3.1%)	194 (100.0%)
共和	子どもなし	0 (0.0%)	1 (12.5%)	4 (50.0%)	1 (12.5%)	2 (25.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	8 (100.0%)
	子どもあり	5 (55.6%)	0 (0.0%)	3 (33.3%)	1 (11.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	9 (100.0%)
	計	5 (29.4%)	1 (5.9%)	7 (41.1%)	2 (11.8%)	2 (11.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	17 (100.0%)
清水	子どもなし	5 (10.6%)	2 (2.1%)	32 (68.1%)	4 (8.5%)	2 (4.3%)	0 (0.0%)	3 (6.4%)	47 (100.0%)
	子どもあり	3 (4.8%)	1 (1.6%)	44 (71.0%)	8 (12.9%)	5 (8.1%)	0 (0.0%)	1 (1.6%)	62 (100.0%)
	計	8 (7.4%)	3 (2.7%)	76 (69.7%)	12 (11.0%)	7 (6.4%)	0 (0.0%)	4 (3.7%)	109 (100.0%)
三保	子どもなし	2 (9.1%)	0 (0.0%)	17 (77.3%)	2 (9.1%)	1 (4.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	22 (100.0%)
	子どもあり	3 (9.7%)	1 (3.2%)	21 (67.8%)	5 (16.1%)	1 (3.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	31 (100.0%)
	計	5 (9.4%)	1 (1.9%)	38 (71.7%)	7 (13.2%)	2 (3.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	53 (100.0%)
未記入	子どもなし	6 (17.7%)	3 (8.8%)	16 (47.1%)	7 (20.6%)	1 (2.9%)	0 (0.0%)	1 (2.9%)	34 (100.0%)
	子どもあり	9 (23.7%)	2 (5.3%)	16 (42.1%)	9 (23.7%)	1 (2.6%)	0 (0.0%)	2 (5.3%)	38 (100.0%)
	計	15 (20.8%)	5 (6.9%)	32 (44.5%)	16 (22.2%)	2 (2.8%)	0 (0.0%)	3 (4.2%)	72 (100.0%)
合計	子どもなし	44 (10.4%)	18 (4.3%)	224 (52.9%)	102 (24.1%)	21 (5.0%)	1 (0.2%)	13 (3.1%)	423 (100.0%)
	子どもあり	95 (17.8%)	30 (5.6%)	268 (50.3%)	102 (19.1%)	27 (5.1%)	2 (0.4%)	9 (1.7%)	533 (100.0%)
	計	139 (14.6%)	48 (5.0%)	492 (51.5%)	204 (21.3%)	48 (5.0%)	3 (0.3%)	22 (2.3%)	956 (100.0%)

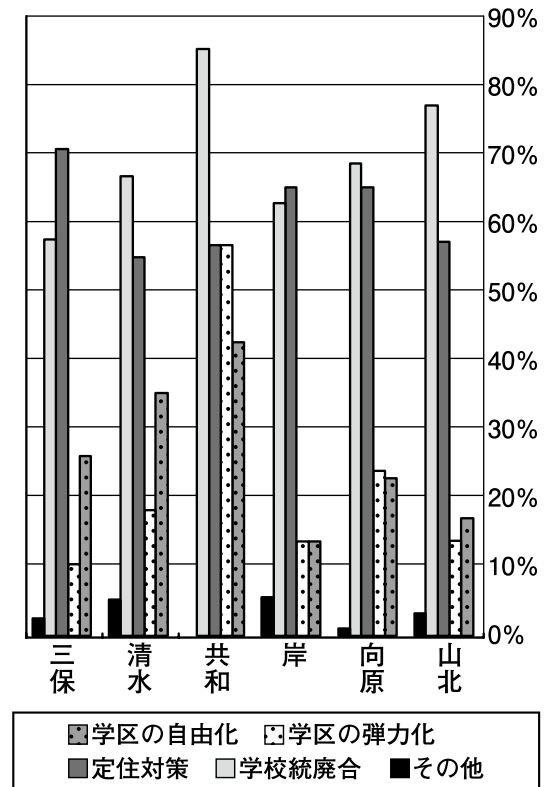
問 山北町全体として見た場合、小・中学校の規模（1クラスの児童・生徒数や各学校の総児童・生徒数）について、どのように考えますか。



地区		学区の自由化	学区の弾力化	定住対策	学校統廃合	その他	少ないと回答した人数
山北	子どもなし	7 (10.6%)	9 (13.6%)	31 (47.0%)	56 (84.8%)	3 (4.5%)	66
	子どもあり	19 (22.4%)	12 (14.1%)	56 (65.9%)	62 (72.9%)	2 (2.4%)	85
	計	26 (17.2%)	21 (13.9%)	87 (57.6%)	118 (78.1%)	5 (3.3%)	151
向原	子どもなし	8 (19.0%)	10 (23.8%)	22 (52.4%)	34 (81.0%)	1 (2.4%)	42
	子どもあり	12 (26.7%)	11 (24.4%)	35 (77.8%)	25 (55.6%)	0 (0.0%)	45
	計	20 (23.0%)	21 (24.1%)	57 (65.5%)	59 (67.8%)	1 (1.1%)	87
岸	子どもなし	3 (6.4%)	6 (12.8%)	20 (42.6%)	32 (68.1%)	3 (6.4%)	47
	子どもあり	9 (16.7%)	6 (11.1%)	37 (68.5%)	24 (44.4%)	2 (3.7%)	54
	計	12 (11.9%)	12 (11.9%)	57 (56.4%)	56 (55.4%)	5 (5.0%)	101
共和	子どもなし	1 (25.0%)	2 (50.0%)	4 (100.0%)	4 (100.0%)	0 (0.0%)	4
	子どもあり	1 (33.3%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	2 (66.7%)	0 (0.0%)	3
	計	2 (28.6%)	3 (42.9%)	4 (57.1%)	6 (85.7%)	0 (0.0%)	7
清水	子どもなし	7 (21.9%)	5 (15.6%)	17 (53.1%)	20 (62.5%)	3 (9.4%)	32
	子どもあり	20 (45.5%)	9 (20.5%)	25 (56.8%)	31 (70.5%)	3 (6.8%)	44
	計	27 (35.5%)	14 (18.4%)	42 (55.3%)	51 (67.1%)	6 (8.1%)	76
三保	子どもなし	2 (11.8%)	2 (11.8%)	13 (76.5%)	9 (52.9%)	0 (0.0%)	17
	子どもあり	8 (38.1%)	2 (9.5%)	14 (66.7%)	13 (61.9%)	1 (4.8%)	21
	計	10 (26.3%)	4 (10.5%)	27 (71.1%)	22 (57.9%)	1 (2.6%)	38
未記入	子どもなし	2 (12.5%)	1 (6.3%)	7 (43.8%)	12 (75.0%)	0 (0.0%)	16
	子どもあり	2 (12.5%)	2 (12.5%)	11 (68.8%)	11 (68.8%)	2 (12.5%)	16
	計	4 (12.5%)	3 (9.4%)	18 (56.3%)	23 (71.9%)	2 (6.3%)	32
合計	子どもなし	30 (13.4%)	35 (15.6%)	114 (50.9%)	167 (74.6%)	8 (3.6%)	224
	子どもあり	71 (26.5%)	43 (16.0%)	178 (66.4%)	168 (62.7%)	10 (3.7%)	268
	計	101 (20.5%)	78 (15.9%)	292 (59.3%)	335 (68.0%)	18 (3.7%)	492

※パーセントは「少ない」と回答した人数を母数とした割合
複数回答のため、合計は100%になりません

問 前の問いで「少ない」と答えた方へ、どのような対策が必要だと思いますか。（複数回答可）



平成19年度 決算の概要

～町民生活の向上と環境に配慮した事業を展開～

平成19年度の歳入・歳出決算が、9月17日の町議会で認定されました。歳出の決算額は、一般会計・9特別会計・水道事業会計を合わせて96億3,169万円となり、前年度に比べ11億5,832万円の増となりました。

山北町第4次総合計画の8年目となった平成19年度の主な事業は、花と水の交流圏づくり推進事業、水源地域交流の里づくり推進事業、まちづくり交付金事業、水源環境保全・再生交付金事業、重度障害者医療費助成事業、障害者自立支援給付事業、小児医療費助成事業、中山間地域総合整備事業、道路新設改良事業などです。

一般会計

▼町の会計の中心となる一般会計は、歳入は17.0%増・歳出は19.8%の増

平成19年度の歳入（入ったお金）は、56億6,033万円で、前年度と比べ8億2,093万円の増となりました。

一方、歳出（支払われたお金）は、55億1,444万円で、前年度と比べ9億0,983万円の増となりました。

歳入

一般会計に入ったお金のうち、町税、分担金及び負担金、使用料及び手数料など、直接町に入ってくる「自主財源」は、35億3,616万円で、前年度に比べ6億2,957万円の増となり、歳入総額の62.5%を占めています。この自主財源の主体となっているのは町税22億3,228万円で、前年度より1億0,397万円増となりました。

一方、国・県支出金、地方交付税、町債、地方消費税交付金などの「依存財源」は、21億2,417万円で、国庫支出金や県支出金は前年度を大幅に上回り、地方交付税も、前年度と比べ2,242万円の増となり、歳入総額の37.5%を占めています。

歳出

一般会計で支払われたお金は、55億1,444万円となりました。

主なものは、総務費が、まちづくり交付金事業など、19億3,502万円、民生費は、県後期高齢者医療広域連合事務費負担金や後期高齢者医療電算システム導入など、7億9,531万円となりました。衛生費は、公下水道の普及に伴うし尿処理事業の減などにより6億8,283万円となりました。農林水産業費は、中山間地域総合整備事業や農業用道路横断工作物緊急耐震対策事業など、2億8,634万円となりました。

土木費は、道路新設改良事業や下水道事業特別会計繰出金の増など、4億3,813万円となりました。消防費は、消火栓設置工事（村雨）や消防ポンプ自動車（10分団）の更新、足柄消防組合負担金など、2億5,005万円となりました。教育費は、4億4,741万円となりました。

公債費は、平成15年度借入の臨時財政対策債や健康福祉センター事業債等の償還が始まり、4億3,889万円となりました。

性質別に分けた主なもの

●人件費

退職に伴う職員数の減や職員給与が減額となったことなどによ

り、前年度より5,976万円減の13億4,993万円となりました。

●物件費

電算システムを汎用機からクライアントサーバーシステムへ切り替えたことや後期高齢者医療制度に対応した電算システムの整備などにより、前年度より5,848万円増の7億4,477万円となりました。

●扶助費

小児医療費の無料化の拡大などにより、前年度より2,630万円増の2億7,968万円となりました。

●補助費

県西地域広域斎場建設協議会負担金や県後期高齢者医療広域連合負担金などの増により、前年度より1,692万円増の7億3,953万円となりました。

●普通建設事業費

水源地域交流の里づくり推進事業やまちづくり交付金事業、今年度から実施した水源環境保全・再生交付金事業及び中山間地域総合整備事業などにより、前年度より2億8,545万円増の7億5,205万円となりました。

将来にわたる財政負担

町の借入金金は、41億7,430万円となり、前年度に比べ1,361万円の減となりました。内訳としては、地方交付税で賄うべきものを、特例的に地方債で補てんする



臨時財政対策債や、所得税減税による減収額分を補てんする減税補てん債（地方交付税で全額措置される地方債の元利償還金額19億4,858万円）を除いた額は、22億2,572万円です。これを町民1人当たりの負担額に換算すると、約18万円となります。

主な財政分析指標

公債費に充当した一般財源（4億1,825万円）の一般財源総額に対する割合を公債費負担比率といい、その率が高いほど財政運営の硬直性の高まりを示します。町の平成19年度公債費負担比率は、前年度より0.1ポイント下がり9.4%となり、一般的には財政運営上15%が警戒ライン、20%が危険ラインとされる指標を大きく下回りました。

また、財政構造の弾力性を測定する経常収支比率は、75%から80%が望ましいとされていますが、19年度は87.3%となりました。

前年度と比較した各会計のいったお金・支払われたお金 (単位:万円)

区分 年度・増減 会計名	入ったお金(歳入)			支払われたお金(歳出)		
	19年度	18年度	増減額 (増減率)	19年度	18年度	増減額 (増減率)
一般会計	56億6,033	48億3,940	8億2,093増 (17.0%増)	55億1,444	46億0,461	9億0,983増 (19.8%増)
特別会計	40億0,115	38億3,351	1億6,764増 (4.4%増)	39億0,104	36億5,690	2億4,414増 (6.7%増)
水道事業会計	2億6,031	2億4,592	1,439増 (5.9%増)	2億1,621	2億1,186	435増 (2.1%増)
合計	99億2,179	89億1,883	10億0,296増 (11.2%増)	96億3,169	84億7,337	11億5,832増 (13.7%増)

一般会計

歳入

(単位:万円)

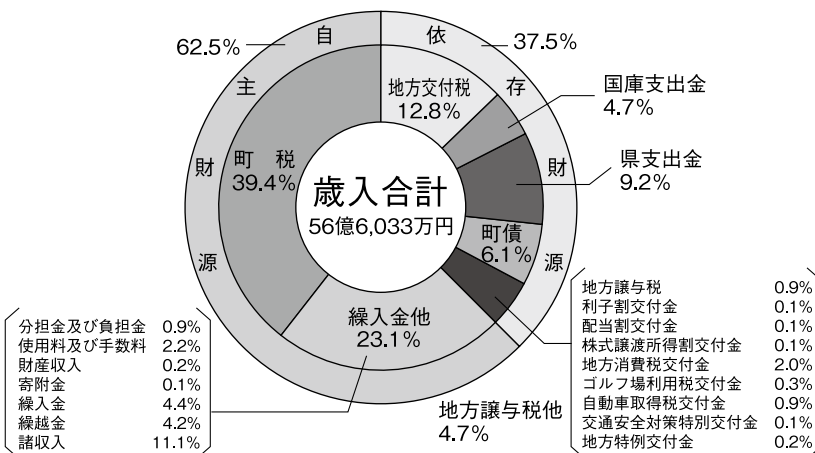
年度・増減 項目	19年度 予算現額	19年度 決算額	18年度 決算額	18年度との 増減額
町税	21億9,932	22億3,228	21億2,831	1億0,397増
地方消費税交付金	1億1,576	1億1,576	1億2,180	604減
地方交付税	7億2,704	7億2,704	7億0,462	2,242増
使用料及び手数料	1億2,139	1億2,404	1億4,278	1,874減
国・県支出金	7億8,836	7億8,281	4億6,745	3億1,536増
繰入金	2億5,134	2億5,134	2億3,904	1,230増
繰越金	2億3,480	2億3,480	1億5,763	7,717増
諸収入	6億2,436	6億2,635	1億1,815	5億0,820増
町債	3億4,420	3億4,420	3億4,860	440減
その他	2億2,047	2億2,171	4億1,102	1億8,931減
計	56億2,704	56億6,033	48億3,940	8億2,093増

歳出

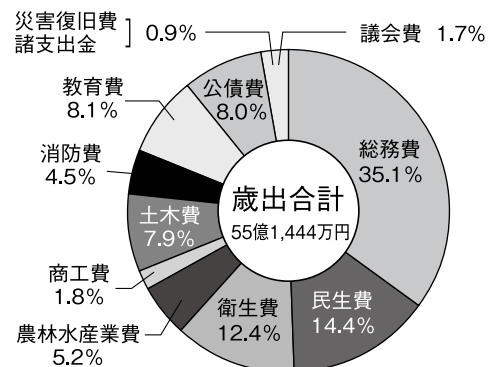
(単位:万円)

年度・増減 減項目	19年度 予算現額	19年度 決算額	18年度 決算額	18年度との 増減額
議会費	9,446	9,417	1億0,964	1,547減
総務費	19億5,406	19億3,502	11億8,561	7億4,941増
民生費	8億0,957	7億9,531	7億7,226	2,305増
衛生費	6億9,350	6億8,283	6億9,597	1,314減
農林水産業費	3億0,009	2億8,634	1億7,238	1億1,396増
商工費	9,917	9,821	1億1,121	1,300減
土木費	4億3,988	4億3,813	3億7,746	6,067増
消防費	2億5,232	2億5,004	2億6,139	1,135減
教育費	4億5,325	4億4,741	5億2,103	7,362減
災害復旧費	2,060	1,786	119	1,667増
公債費	4億3,889	4億3,889	3億9,454	4,435増
諸支出金	3,023	3,023	193	2,830増
予備費	4,102	0	0	
計	56億2,704	55億1,444	46億0,461	9億0,983増

財源別歳入内訳



歳出内訳(款別)



衛生費

6億8,283万円

- 検診・予防接種の実施
- 町民健康マイスター講座開催事業
- 不燃物、粗大ごみの収集委託
- リサイクル品、処理困難物、ペットボトルの回収委託
- 足柄西部清掃組合への負担金
- 健康福祉センターの管理

民生費

7億9,531万円

- 高齢者生きがい事業団への助成
- 地域作業所やまなみ工芸への運営助成
- 保育園の維持管理、運営
- 町社会福祉協議会への助成
- 県後期高齢者医療広域連合負担金
- 障害者自立支援給付事業
- 小児医療費助成事業
- 児童手当支給事業

土木費

4億3,813万円

- 町道維持補修事業
 - 町内一円道路維持工事
- 道路新設改良事業
 - 町道の新設改良
- 川村用水改修工事、皆瀬川用水維持管理工事
- くみの木近隣公園、岸児童公園、山北鉄道公園、丸山公園、向原街区公園、河村城址歴史公園の維持管理
- 町営住宅の維持管理

農林水産業費

2億8,634万円

- やまきたまち農業活性化推進事業
 - 獣害防止柵設置
- 中山間地域等直接支払事業
- 農道、用水維持管理事業
 - 農道補修、用水組合助成
- 中山間地域総合整備事業
 - 浅間山農道工事、日向中河原農道工事、日向用水路整備工事、中河原農地防災工事
- 農業用道路横断工作物緊急耐震対策事業
 - 向山橋落橋防止工事

目的別の 主な使いみち

総務費

19億3,502万円

- 広報紙発行事業
- 庁舎等の維持管理
- コミュニティ助成事業
- 花と水の交流圏づくり推進事業
 - 大野山桜の里づくり整備
- 県営電気事業
 - 川村小ピオトープづくり
- 電算管理運用事業
 - 新規電子計算機システム等の構築（18システム）
- まちづくり交付金事業
 - 町道水上線橋梁新設調査
 - 町道平山線改良
 - 町道河村城址歴史公園線新設
 - 観光情報版設置工事（方向指示板6基、観光案内板2基）
 - 山北中学校改修工事
 - 河村城址歴史公園整備
 - ハイブリッド型街路灯整備（2基）
 - デジタル地域防災無線ネットワークシステム整備
 - 駅周辺魅力づくり調査
 - 町内循環バスの運行（小型バス2台による運行）
- 水源環境保全・再生交付金事業
 - 地域水源林の整備
（高松山作業道測量・設計、町有林・私有林整備）
 - 地下水保全対策（足柄上地区地下水保全計画策定）
 - 河川・水路自然浄化対策、農業用水路改修
 - 合併処理浄化槽設置整備
（三保ダム集水域町村設置型合併処理浄化槽設置整備計画策定調査）
- 固定資産評価事業
 - 土地評価業務委託等
- 山北町議会議員選挙事業
- 神奈川県知事・県議会議員選挙事業
- 参議院議員選挙事業

教育費






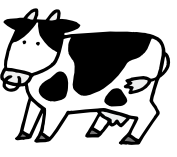



4億4,741万円

- 教育委員会、幼稚園、小・中学校の運営
- 英語補助教員の設置
- 中央公民館の管理、運営
- 図書室の運営
- スポーツの振興

一般会計

19年度に
町民1人あたりに使われた町のお金
44万2,110円

目的別歳出額を平成20年4月1日現在の
人口(12,473人)で換算した金額

総務費  155,137円	教育費  35,870円	土木費  35,126円
衛生費  54,744円	民生費  63,763円	農林水産業費  22,957円
公債費  35,187円	消防費  20,047円	議会費・その他  19,279円



商工費

9,821万円

- 道の駅「山北」の運営助成
- 町商工会への助成
- 町観光協会への助成
- クリスマス in 丹沢湖イルミネーション設置委託
- ひだまりの里運営協議会助成

公債費

4億3,889万円

- 元金 3億5,781万円
- 利子 8,108万円

消防費

2億5,005万円

- 足柄消防組合への負担金
- 消防施設整備事業
 - 消防ポンプ自動車購入、消火栓の設置、消防用資機材の購入
- 消防団の運営
- 防災対策備品等整備事業
 - 備蓄食糧購入、災害用トイレ洋式4台、避難所間仕切り10個

議会費

9,417万円

- 議会の運営
- 議員の報酬
- 議会だよりの発行

災害復旧費

1,786万円

- 道路などの災害復旧

諸支出金

3,023万円

- 土地開発公社への補助



特別会計

特別会計とは、町が特定の事業を行う場合に特定の歳入をもって歳出にあてるもので、一般会計と区分して処理するための会計のことをいいます。

特別会計には、国民健康保険事業や老人保健医療、下水道事業など9種類の会計があり、事業費の歳入総計は、40億0,115万円となりました。

また、歳出総合計額は、39億0,104万円となりました。

主な特別会計

【国民健康保険事業】

平成19年度の国民健康保険加入世帯数は、2,588世帯、加入者数は4,891人でした。

このうち、一般被保険者は2,231人、退職者医療制度適用者1,161人、老人保健適用者1,500人でした。

19年度の被保険者一人当たり平均医療費(入院・通院・調剤)は、一般被保険者分19万0,857円、退職者被保険者等分30万1,259円、老人保健分57万2,432円を支出しました。このほか、国民健康保険事業では、出産育児一時金、葬祭費、高額療養費などを支出しました。

【老人保健医療】

老人保健法に基づく医療給付事業で、1,770人を対象に、医療費の負担をしました。

歳出のうち98%以上を医療費が占めており、1か月当たりの平均給付額は1億0,007万円でした。

【下水道事業】

宮の窪地区の一部の工事を行いました。

借入金の残高は、36億9,901万円です。

【介護保険事業】

介護保険法に基づく保険給付事業で、歳入は保険料、支払基金交付金、国庫支出金、県支出金、一般会計繰入金などです。

歳出は、総額の約86.2%を保険給付費が占めています。

また、介護予防を目的に地域支援事業費が設けられ、1,745万円が支出されました。

【商品券】

町内商工業の振興を目的として発行している町内限定の商品券で、19年度は1,000円券4,855枚、500円券15,128枚を発行しました。

特別会計の内訳

(単位：万円)

区分 年度・増減 会計名	入ったお金(歳入)		支払われたお金(歳出)	
	19年度	18年度との増減額 (増減率)	19年度	18年度との増減額 (増減率)
国民健康保険事業	12億7,692	9,721増 (8.2%増)	12億5,370	1億3,673増 (12.2%増)
老人保健医療	12億1,847	4,206減 (3.3%減)	12億2,117	3,399減 (2.8%減)
災害給付見舞事業	1,104	0	0	0
下水道事業	4億6,713	3,693減 (7.3%減)	4億5,856	3,086減 (6.3%減)
山北財産区	2,409	1,583増 (191.7%増)	1,594	1,480増 (1293.7%増)
共和財産区	8,755	6,782増 (343.6%増)	7,882	6,490増 (466.2%増)
三保財産区	1,463	219増 (17.7%増)	649	356増 (121.5%増)
介護保険事業	8億8,376	6,406増 (7.8%増)	8億5,371	8,925増 (11.7%増)
商品券	1,756	48減 (2.7%減)	1,265	25減 (1.9%減)
合計	40億0,115	16,764増 (4.4%増)	39億0,104	24,414増 (6.7%増)

企業会計

【水道事業】

水道事業会計は、地方公営企業法に基づき、安全でおいしい水を供給することを目的に設置された企業会計です。

平成19年度の収入は、2億6,031万円となりました。

支出は2億1,621万円となりました。

また、借入金(地方債現在高)の残高は、7億4,745万円です。



企業会計

【水道事業】

上水道1施設、簡易水道8施設を運営し、町民1万2,264人に年間約160万トンの「安全でおいしい水」を供給しました。

水道料金による収入は、1億7,270万円ありました。

平成19年度に実施した主な事業は、防災支援事業として、配水管布設替工事などです。

財政用語解説

【自主財源】 町税や使用料、手数料、財産収入など直接町に入ってくるお金です。

【依存財源】 国や県の法令等によって定められた額を交付されたり、割り当てられたりするお金です。

【町税】 町民税、固定資産税、市町村たばこ税などで、町の歳入の約4割を占めます。

【地方消費税交付金】 消費税5%のうち1%を都道府県と市町村で2分の1ずつ分け、各市町村にその人口や業者数などによって交付されるお金です。

【地方交付税】 全国の市町村間で行政サービスの水準に格差が生じないよう、そのすべての市町村で、ある一定の水準以上の行政サービスができる財源として、国から市町村に交付されるお金です。

【国庫支出金・県支出金】 国や県から交付されるお金で、町が実

施する事業に対する、国や県からの補助金です。

【繰入金】 一般会計、特別会計などの会計間において繰り入れるお金です。

【繰越金】 前年度決算において生じた剰余金を、次年度の歳入に繰り入れたお金です。

【諸収入】 特定歳入のための科目ではなく、他の収入科目に含まれない収入（延滞金、預金利子など）です。

【地方債・町債】 地方公共団体が資金調達のために起こす債務（借入金）のことです。また、地方債を起こすことを起債といいます。

【財産収入】 地方公共団体が持っている財産に係る貸付、出資、交換または売払いによって生じた現金収入です。

【一般財源】 使途が特定されていない財源のことで、19年度歳入決算額のうち一般財源は44億3,446円です。なお、使途が決められている財源は特定財源といえます。

① 平成19年度決算に基づく山北町の健全化判断比率

(単位：%)

実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
— (15.00未満)	— (20.00未満)	11.3 (25.0未満)	109.7 (350.0未満)

備考

- (1) 実質赤字額又は連結実質赤字額がない場合及び実質公債費比率又は将来負担比率が算定されない場合は「—」。
 (2) () 内は山北町における早期健全化基準。

② 平成19年度決算に基づく山北町の公営企業の資金不足比率

(単位：%)

特別会計の名称	資金不足比率
山北町下水道事業特別会計	— (20未満)
山北町水道事業会計	— (20未満)

備考

- (1) 資金不足比率が算定されない場合は「—」。
 (2) () 内は山北町における経営健全化基準。

地方公共団体の財政の健全化に関する法律が施行され、平成19年度決算より健全化判断比率及び資金不足比率の議会への報告と住民への公表が義務付けられました。

平成19年度
山北町の健全化判断比率
及び資金不足比率

◎健全化判断比率の公表

地方公共団体は毎年度、以下の健全化判断比率を監査委員の審査を受けて町議会に報告し、公表することとなりました。

1. 実質赤字比率

一般会計及び特別会計のうち普通会計に相当する会計における実質赤字額の標準財政規模に対する比率。

*普通会計

一般会計、災害給付見舞事業特別会計、商品券特別会計

*標準財政規模

地方公共団体の一般財源の標準規模を示すもの

2. 連結実質赤字比率

全会計の実質赤字額の標準財政規模に対する比率

3. 実質公債費比率

一般会計等が負担する借入金の元利償還金及び準元利償還金を標準財政規模で除して得た数値の3か年平均

4. 将来負担比率

出資法人（土地開発公社、環境整備公社）を含めたすべての会計の実質負債の標準財政規模に対する比率

◎財政の早期健全化

健全化判断比率のいずれかが、国の定める早期健全化基準以上の場合には、財政健全化計画を定めなければならぬこととなりました。

この財政健全化計画は、議会の議決を経て定め、速やかに公表するとともに、県知事へ報告しなければならぬものです。

※国の定める早期健全化基準

・実質赤字比率

山北町の場合は15%

(財政規模による)

・連結実質赤字比率

山北町の場合は20%

(財政規模による)

・実質公債費比率

市町村は一律25%

・将来負担比率

市町村は一律350%

◎財政再生計画

健全化判断比率のうち「実質赤字比率」「連結実質赤字比率」「実質公債費比率」の3つのいずれかが、国の定めた財政再生基準以上の場合には財政再生計画を定めなければならぬこととなりました。

この財政再生計画は、議会の議決を経て定め、速やかに公表するとともに、総務大臣に協議し、その同意を求めなければならぬものです。

*国が定めた財政再生基準

・実質赤字比率

市町村は一律20%

・連結実質赤字比率

市町村は一律30%

・実質公債費比率

市町村は一律35%

◎公営企業の健全化

公営企業会計（下水道事業特別会計、水道事業会計）も、会計として、資金不足比率を監査委員の審査を受けて議会に報告し、公表し、これが基準以上となった場合には、経営健全化計画を定めなければならぬこととなりました。

*経営健全化基準

・資金不足比率

市町村は一律20%

【問合せ】 企画財政課財務班

(電話) 7513652

個人情報

保護と活用のバランスが大切です

～あなたの個人情報、「過保護」になっていませんか？～

個人情報保護法が、平成17年4月に全面施行されて以来、個人情報の保護に関して、過剰ともいえるような反応が起こっています。個人情報保護制度を正しく理解して、個人情報を保護するとともに、上手に利用しましょう。

個人情報の保護に当たっては、個人情報の有用性に配慮する必要があります！

経済・社会の情報化が進み、個人情報を利用したいろいろなサービスが提供され、私たちの生活は大変便利になっています。また、これまでも、互いに個人情報を共有することによって、地域社会の協力や連携が図られてきました。

利用・提供するためには、工夫も必要です！

同窓会名簿や緊急連絡網を作る場合には、本人に利用目的や配付先などをよく説明し、納得してもらうことが重要です。

【個人情報相談ダイヤル】

(電話) 03-3581-9778



敬老のつどい

9月15日の敬老の日に、中央公民館で敬老のつどいが開催されました。地区別に午前部、午後部が行われ、75歳以上の敬老者約400名が参加されました。

第一部の式典では、米寿・長寿夫妻の紹介、敬老の日作文コンクールの表彰と発表などが行われ、第二部の余興では、敬老者代表による歌や、芸人三木ヒロシさんによる漫談、歌手の亜耶さんによる歌謡ショーが行われ、敬老者の皆さんから盛大な拍手が送られました。



第26回「敬老の日」作文コンクール

町内の小学校5・6年生を対象に「敬老の日」作文コンクールが行われ、9月15日に開催された、敬老のつどいの席上で、最優秀に選ばれた、梶谷正恵さん(共和小5年生)と池田敦くん(川村小6年生)が作文を発表しました。

なお、入選者と作文の題名は次のとおりです。(敬称略)

5年生の部

最優秀賞

梶谷正恵(共和小)
「何でもできるおばあちゃん」

優秀賞

佐藤由佳(川村小)
「ダンス大好き」
「おばあちゃんはやさし」
「おばあちゃんはやさし」
「おばあちゃんはやさし」
「おばあちゃんはやさし」

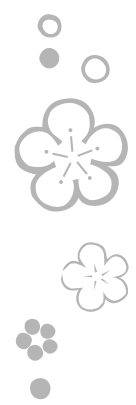
6年生の部

最優秀賞

池田敦(川村小)
「おじいちゃんとおばあちゃん」

優秀賞

大野竜雅(川村小)
「僕の大切な祖父と祖母」
山口祐理(川村小)
「いつまでも元気な長生きしてね」
細谷岳哉(清水小)
「あこがれの人のおじいちゃん」
稲葉くるみ(三保小)
「バーデンライフ中川のお年よ」



第28回

町統計グラフコンクール

★ 入選作品
31点 ★



9月9日、中央公民館で町統計グラフコンクールの審査会が行われ、5部門で入選作品31点が決まりました。

今回のコンクールには、町内の小学校から84点・114人、中学校から134点・139人の応募がありました。入選した作品は、神奈川県統計グラフコンクールに出品されます。

なお、入選者は次のとおりです。(敬称略)

第1部(小学校1・2年生)

(三保小1年)

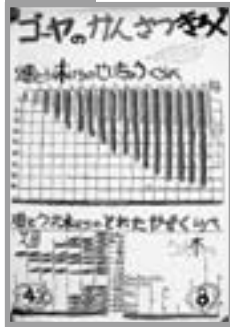
高橋樹、三尋木丈也

(川村小2年)

瀬戸瑞生、高杉菜緒、
湯川宜樹



第1部



「ゴージャのかんさつきろく」
瀬戸瑞生(川村小2年)

第2部



「いつかはくるの?大じしん」
小酒部泰暉(川村小4年)

第2部(小学校3・4年生)

(清水小3年)

松井りの

(川村小4年)

小酒部泰暉、権守航大

(共和小4年)

井上千寛・瀬戸みどり・

山本藍、山本陽

第3部(小学校5・6年生)

(川村小5年)

瀬戸夏美、高橋史帆

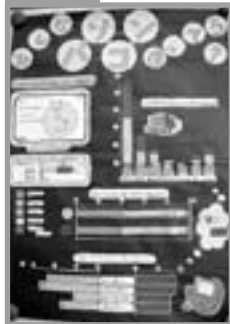
(清水小5年)

田中汐美

(川村小6年)

大胡田早紀・鴈丸真紀、
流石萌恵・白井萌々花、
中野沙耶・高橋美優・
石川万葉

第3部



「みんなパソコン使ってる?」
高橋史帆(川村小5年)

第4部



「CO2削減でSTOP!
地球温暖化」
瀬戸恵里奈(山北中1年)

第4部(中学生)

(山北中1年)

今田沙希、瀬戸恵里奈、

高橋沙江、高橋夏希、

松永結佳

(三保中3年)

磯田覚子、小賀坂知ひろ

パソコンの部

(山北中1年)

倉橋涼太

(清水中1年)

加藤翔太、田中正人

(山北中2年)

杉本幸恵

(山北中3年)

木村菜々、鈴木啓也、

田代千絵

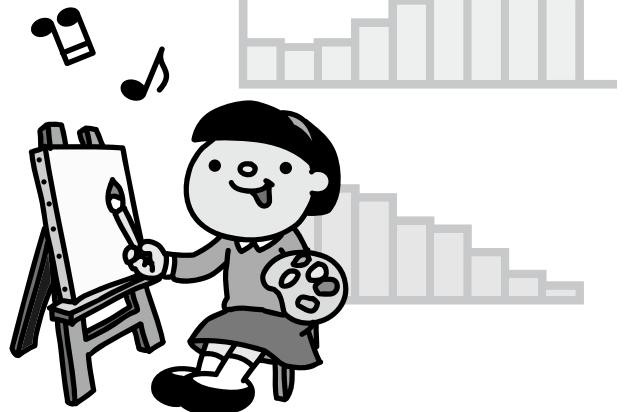
(清水中3年)

山崎良樹

パソコンの部



「このままでいいの?
日本の食料事情」
木村菜々(山北中3年)



中央公民館だより

No. 187

編集発行／山北町立中央公民館 〒258-0113 足柄上郡山北町山北1301-4
☎ 0465(75)3131 Fax 0465(75)3030



ボランティアサークル

汽車ポッポ

人形劇公演

人形劇サークル“汽車ポッポ”の定期公演は、今年で8回目を迎えます。
ボランティアの方たちによる“手作り人形劇”を、是非見に来てください。

公演内容 * * * * *

◆人形劇

「北風がくれたテーブルかけ」

◆パネルシアター

「からすのパンやさん」



日 時	10月16日(木)	1回目	9時30分～
		2回目	11時00分～
場 所	多目的ホール	入場自由・無料	

心の豊かさは学びから

「あなたも生涯学習活動に参加してみませんか」

行事予定 Schedule

* 都合により内容を変更する場合がありますのでご了承ください。

10月	催し物名	場所	開始時間	対象	主催者・問合せ
1 水	ハッピーランドキッズ	第1・2会議室	10:00	申込者	中央公民館
2 木					
3 金					
4 土	ジュニアコーラス	視聴覚ホール	13:30	申込者	中央公民館
5 日	休館日 (やまきた健康スポーツ大会)				
6 月	休館日				
7 火					
8 水	ハッピーランドキッズ	第1・2会議室	10:00	申込者	中央公民館
9 木					
10 金					
11 土	ジュニアコーラス	視聴覚ホール	13:30	申込者	中央公民館
	環境講演会	多目的ホール	13:30	申込者	生活環境課 ☎ (75) 3645
12 日	山北クラシック音楽連盟第14回コンサート	多目的ホール	14:00	自由	山崎美恵子 ☎ (75) 0783
13 月	休館日 (体育の日)				
14 火					
15 水					
16 木	汽車ポッポ・人形劇公演	多目的ホール	9:30 11:00	自由	中央公民館
17 金					
18 土	ジュニアコーラス	視聴覚ホール	13:30	申込者	中央公民館
19 日					
20 月	休館日				
21 火	福寿大学	多目的ホール	13:30	申込者	社会福祉協議会 ☎ (75) 1294
22 水					
23 木	福寿大学	多目的ホール	13:30	申込者	社会福祉協議会 ☎ (75) 1294
24 金					
25 土	ジュニアコーラス	視聴覚ホール	13:30	申込者	中央公民館
26 日	秋のロビーコンサート	1階ロビー	14:00	自由	中央公民館
27 月	休館日				
28 火					
29 水	ハッピーランドキッズ	第1・2会議室	10:00	申込者	中央公民館
30 木	福寿大学	多目的ホール	13:30	申込者	社会福祉協議会 ☎ (75) 1294
31 金					

11月	催し物名	場所	開始時間	対象	主催者・問合せ
2 日	町民文化祭・展示発表会	多目的ホール他	9:00	自由	生涯学習課 ☎ (75) 3649
3 月					
4 火					
5 水	休館日 (振替休日)				
6 木	休館日 (振替休日)				
8 土	ジュニアコーラス	視聴覚ホール	13:30	申込者	中央公民館
11 火	福寿大学	多目的ホール	13:30	申込者	社会福祉協議会 ☎ (75) 1294
12 水	ハッピーランドキッズ	第1・2会議室	10:00	申込者	中央公民館
15 土	ジュニアコーラス	視聴覚ホール	13:30	申込者	中央公民館
16 日	町民文化祭・芸能発表会	多目的ホール	10:00	自由	生涯学習課 ☎ (75) 3649

※ 町民文化祭は9:00から17:00までとなります。ただし、4日は15:00までです。

本のリサイクル展

図書室では、不用になった本や町民の皆様から提供していただいた本を有効活用するため、リサイクル展を開催します。

期 間 10月18日（土）～10月26日（日）

場 所 1階ロビー

ご自由にお持ち帰りください！



山北クラシック音楽連盟 第14回コンサート

主 催 山北クラシック音楽連盟

後 援 山北町教育委員会

日 時 10月12日（日）14：00開演

場 所 多目的ホール

内 容 ピアノ・声楽・サクソ・フルート演奏

曲 目 チャイコフスキー作曲「くるみ割り人形」
ラ・ポエームより「私の名はミミ」
メフィストワルツより「村の居酒屋」他

問合せ 山崎美恵子 ☎（75）0783



—入場無料（要入場整理券）・中央公民館でも配付しています—

秋のロビーコンサート

日 時 10月26日（日） 14：00～14：30

場 所 1階ロビー

内 容 「さるかに昔ばなし」
「ピーター・パン」

出演者 ワンダーランド
ハッピーランドキッズ —入場自由・無料—



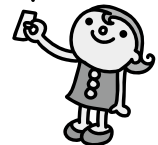
限られた資源を
大切にしましょう

～環境にやさしいまちづくりを目指して～

中央公民館では、地球温暖化防止対策推進のため、

- ①照明は使用時以外こまめに切る。
- ②冷暖房は、冷房28℃以上・暖房20℃以下に設定する。

以上のことに取り組んでいます。
皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。





図書室から



☆ 今月の新刊案内 ☆

◆ 一般書

書名	著者名
テンペスト 上・下	池上 永一
ジョーカー・ゲーム	柳 広司
生きるとは、自分の物語をつくること	小川 洋子
銀河祭りのふたり	杉本章子
隠蔽指令	江上 剛

◆ 児童書

書名	著者名
おひさまはどこ？	メアリー・グランブレ
へんしんマジック	あきやま ただし
なつさがし	杉田 比呂美
おばけのジョージのハロウィーン	ロバート・ブライト
バンパイア*ガールズ	シーナ・マーサー

おはなし会

●日程・内容

- ① 10月 4日(土) 絵本「あな」
おはなしボランティア(クローバー)
- ② 10月18日(土) 絵本「きんぎょがにげた」
おはなしボランティア(ゆめ)

●時間 14:30~15:00

●場所 おはなし室(図書室内)

2008 読書週間

◆期間 10月27日(月)~11月9日(日)

◆主催 社読書推進運動協議会

◆標語 おもわぬ出会いがありました。



お知らせ

11月1日(土)~4日(火)は町民文化祭のため、
図書室の利用は17:00までとさせていただきます。
また、この期間中学習室は終日利用できませんので、
ご協力をお願いいたします。

図書室利用案内

- 📖 利用時間は、9:00~18:00です。
(ただし、木曜日以外の17:00~18:00は本の閲覧・コピー・返却業務となります。)
- 📖 新刊図書は、随時入ります。また、新聞・雑誌・ビデオ・DVD等も置いてありますのでご利用ください。
- 📖 図書の貸し出し冊数は、本5冊以内、雑誌2冊以内で、期間は2週間以内です。
- 📖 ビデオ・DVDの貸し出し点数は、合わせて2点以内で、期間は1週間以内です。
- 📖 静かに学習をしたい方は、2階の学習室をご利用ください。その際、図書室で利用手続きを行ってください。
- 📖 休館日の図書の返却は、中央公民館入口横の図書返却ポストをご利用ください。
(ビデオ・DVD・紙芝居は入れないでください。)
- 📖 清水・三保支所の窓口でも返却ができます。
- 📖 インターネットで図書室の蔵書検索・予約ができます。
(アドレスは、<http://webymkt.yama-lib-unet.ocn.ne.jp/>です。)



山北町通信

山北町
健康福祉センター
山北町山北1971-2
(電話)75-0822
(FAX)76-4592

「がん」から身を守ろう！

—予防から検診、そして—

悪性新生物、いわゆる「がん」は、わが国では昭和50年代から死亡原因の第1位となり、平成17年は死亡者の3人に1人ががんで亡くなっています。

山北町でもがんで亡くなる方は、年々増加しています。(図一)

また、男女別の死亡者数の5年間の比較では、がんで亡くなる男性は女性の約2倍となっています。(図二)

臓器別のがん死亡者数の比較では、男性で肺や消化器系(食道、胃、肝臓、大腸)が特に増加しており、女性でも肺が増加しています。

がんは、禁煙、健康的な食生活、適度な運動などで予防可能です。また、さまざまな治療方法も進歩し、がんは早期に発見すれば、決して恐れる病気ではなくなりました。がんで治療を受けた人の80%は、治っています。

検診を受けよう

町では、胃、大腸、肺、子宮、乳がんの検診を実施しています。詳しくは町民カレンダーをご覧ください。お申し込みください。

図1

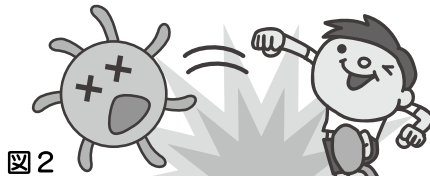
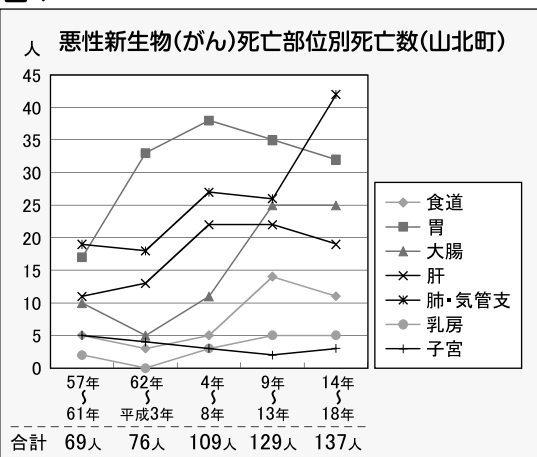
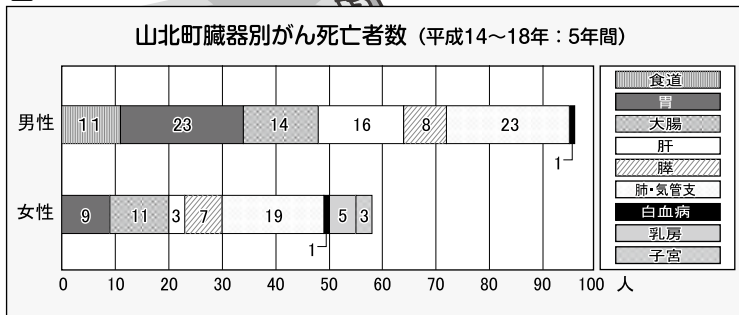


図2



がんを予防しよう

神奈川県では、「がんにならない、負けない神奈川づくり」をスローガンに、がん対策を進めています。がん発生に関係する原因の35%は食生活です。塩辛い食物や脂肪の多い食物などを取りすぎず、野菜中心の食生活を心がけましょう。野菜には、がんを防ぐビタミン類や体内の掃除屋と言われる食物繊維が豊富に含まれています。

次いで、喫煙が原因で30%を占めています。たばこの煙には発がん性物質が多く含まれ、周囲の方々にも大きな悪影響を与えます。つまり、食生活とたばこに注意すれば、がんの65%は防ぐことができるのです。

また、適度な運動やストレス発散は、がん免疫力(NK細胞)が強くなります。

在宅での医療体制から「緩和ケア」まで

緩和ケアとは、「がんと診断されてから、自分らしい生活を最後まで送ることをケアすること」です。最近では、生活の場である在宅での医療が進んでいます。不自由な入院生活による治療から、安心で充実した在宅での治療に、医療の体制が整ってきました。もし、がんになっても、医師と自分の希望についてよく相談していきましょう。がんの治療段階でのさまざまな痛みを緩和する医療も進歩しました。がんになっても、家族や周囲の方々のサポートを受けて、より良い生活を考えられるようになりました。

お父さん 鈴木 厚也さん

お母さん 久子さん

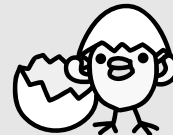


ひなこ
日菜子ちゃん 4歳
ななこ
那菜子ちゃん 4か月



子育てっていいね!

鈴木さん
ご家族
<中清水>



我が家は、今年6月に那菜子が生まれ、4人家族となりました。

長女の日菜子は、歌うことと踊ることが大好きで、好きな歌が聞こえてくると、所かまわず踊りを披露してくれます。そんな日菜子も4月から幼稚園に入園。内弁慶なので心配していましたが、親の心配をよそに、元気に楽しく通ってくれています。自分で出来ることもたくさん増え、食事の支度や掃除の手伝いも積極的にしてくれるようになりました。

次女の那菜子は、2人目の子育てで要領を得ている親の心のゆとりを感じてか、大人しく、よく寝てくれます。最近は表情も豊かになり、その笑顔は皆を癒してくれます。

親になって早4年。初めての子育ては育児本との睨めっこでした。本さえ読んでおけば大丈夫と心構えしていたものの、いざ生まれると本通りにいかず、イライラしたり心配したりする日々。そんな私が今日まで子育て出来たのも、家族の支えや協力があったからだと思います。また、子育て支援センターにも、遊びがてらたくさんの相談にのってもらい心強い存在でした。

まだまだ先の長い子育てですが、子どもと共に成長していきたいと思っています。2人の成長が何よりの楽しみで、子育ての活力の源です。

(お話は、お母さんの久子さん)

Ecommunication

Ecommunication(エコミュニケーション)とは、ecology(環境保護)+communication(通信)を省略した造語です。

10月は

3R<スリーアール>推進月間です

3R<スリーアール>とは

- Reduce** <リデュース> ... 廃棄物の排出抑制
"物を大切に使う。ごみを減らそう。"
- Reuse** <リユース> ... 製品・部品の再使用
"繰り返し使おう。"
- Recycle** <リサイクル> ... 再生資源の利用
"再び資源として使おう。"

毎年10月は「3R推進月間」とし、全国でさまざまな行事が開催されています。

3Rを定着させるには、消費者(町民)・事業者・行政が互いに協力し進めていかなければならない問題です。この機会に改めて、「リデュース」「リユース」「リサイクル」の実態を見直し、ごみの減量化や再資源化にご協力をお願いします。

また、3Rを積極的に取り組まされている事業所や家庭がございましたらお知らせくださいますようお願いいたします。

【問合せ】生活環境課生活環境班 (電話) 75-3645



お誕生おめでとう

地区	赤ちゃん	性別	保護者(敬称略)
城山	井上 莉空	(男)	巧望・潤子
宮地	内田 歩夢	(男)	雅也・ゆかり
宮地	佐藤 健人	(男)	治・美穂
上本村	井上 虎太郎	(男)	準一・ユミ

今月の町の動き

10/5 やまきた健康
スポーツ大会

26 統一美化キャンペーン

町の人口と世帯 (9月1日 現在)

()内は前月比

男	6,076人 (+5人)
女	6,330人 (-2人)
計	12,406人 (+3人)
世帯数	4,187世帯(-1世帯)

まちなデータ

8月の降雨量	8月の平均気温
山北 386mm (90mm)	山北 26.0°C (27.8°C)
三保 323mm (71mm)	三保 25.4°C (26.5°C)

※()内は平成19年の数値 山北の気温は、皆瀬川浄水場での測定値

おくやみ申し上げます

地区	氏名	性別	年齢	世帯主(敬称略)
中清水	小菅 恒昭	(男)	56歳	本人
根下	高橋 セイ	(女)	89歳	〃
宮地	藤原 利雄	(男)	93歳	〃
原耕地	萩野 森治	(男)	62歳	〃
尺里西	露木 良胤	(男)	81歳	〃
湯坂	武井 ソノエ	(女)	97歳	壽雄

※今回の掲載分は、平成20年8月16日から9月15日までに受付したものです。
なお、掲載を希望されない場合は、届出をされる際に申し出ください。

いきるまがし

「君が代」が他国で流れかんな炎ゆ 露木 一江

(評) 誰れもがそうであつたように北京五輪で「君が代」を聞いて感動した作者。そして、国内で「君が代」を耳にしたのは何時だったろうかと気づく作者。その思いを掬いとして生まれた俳句。

(中山妙子 記)

颯雲煙のような夫と居る
 簡潔に終わる祝辞や新走り
 少々の雨は気にせず踊りの輪
 自然体に生きる余生や虫の夜
 生ごみを丁寧に出す竹の春
 新涼や彩吹き返すサルスベリ
 茹で揚げて枝豆に振る塩加減
 湧水の縁の夕風百日紅
 梅を干す星たしかめて床の中
 新涼や鯉一列の彩の波
 丹沢の秋風癒す我も喜寿
 ささやかに地球の真中大根蒔く
 砂浜に玩具ころがる晩夏光
 極暑過ぎ大雨続く日記書く
 子燕やインクの匂う便りくる
 城跡というは名ばかり吾亦紅
 一つだけ良いことあつて颯雲
 秋高し猫と芒のえんびつ画
 阿六櫛の歯のそれぞれに秋の彩
 女子ソフト五輪に金の涙かな
 秋の雨読経に浮かぶ友の顔
 物干竿串さしにする大西日
 稲の花おうむ返し之母笑う
 カラフルな新書の帯や今朝の秋
 欄干を隠るるばかり乱れ萩

金	竹	石	古	和	野	倉	倉	小	坂	池	尾	吉	関	高	稲	尾	小	小	井	瀬	瀬	内	水	武
子	下	田	瀬	田	地	持	持	林	谷	田	崎	田	幸	橋	葉	崎	塚	栗	上	戸	戸	田	野	尾
和	由	加	房	恵	柁	祐	淑	奈	芳	良	重	誠	幸	秋	末	幸	英	無	湖	恵	余	湘	徳	子
夫	里	津	江	美	生	浩	子	美	嘉	子	司	次	子	月	江	子	作	柳	津	音	生	江	子	



総合防災訓練を実施

9月7日、町内全域で総合防災訓練が実施されました。

今年は自衛隊の協力により、三保地区の負傷者を救急車が待機している山北中学校までヘリコプターで搬送したり、炊き出したカレーを配布したりと、町と自衛隊との連携を強化した訓練となりました。

また、各自治会では、消火器による消火方法やケガ人の搬送に使える簡易担架の作り方などの訓練を行いました。



交通ルールを守って安全運転!!



8月27日、南足柄市体育センター・アリーナで、第30回自転車の安全な乗り方足柄上地区大会が開催されました。この大会は自転車競技を通して交通ルールを理解し、交通事故防止につなげることを目的としています。川村小学校から12名の児童が参加し、日ごろの練習の成果を発揮し、充実した1日となりました。

第46回

山北町親睦ゴルフ大会の結果

9月1日、リバーサカワ・ゴルフクラブで第46回山北町親睦ゴルフ大会が開催されました。さわやかな秋空の下、108名の参加された方々はプレーを楽しみ親睦を深めました。

なお、今大会の成績は次のとおりです。(敬称略)



	一般の部	シニア・レディースの部
優勝(町長杯)	瀬戸 重義	杉本 正好
準優勝(議長杯)	増田 英機	瀬戸 伴泰
3位(教育長杯)	加藤 康次	小俣 妙子
4位	山下 輝男	
5位	佐藤 佳久	
6位	高橋 宏和	
ベスグロ	瀬戸 重義	



役場各課の 直通電話番号と メールアドレス

会計室 75-3640
kaikei@town.yamakita.kanagawa.jp
町民課 75-3641
tyomin@town.yamakita.kanagawa.jp
税務課 75-3642
zeimu@town.yamakita.kanagawa.jp

福祉課 75-3644
fukusi@town.yamakita.kanagawa.jp
生活環境課 75-3645
seikatu-kankyo@town.yamakita.kanagawa.jp
産業観光課 75-3646
sankan@town.yamakita.kanagawa.jp
都市整備課 75-3647
toshi@town.yamakita.kanagawa.jp
企画財政課情報管理班 75-3650
johou@town.yamakita.kanagawa.jp
生涯学習課 75-3649
gakusyuu@town.yamakita.kanagawa.jp
学校教育課 75-3648
kyoiku@town.yamakita.kanagawa.jp

政策室 75-3651
seisaku@town.yamakita.kanagawa.jp
企画財政課 75-3652
kikaku-zaisei@town.yamakita.kanagawa.jp
総務防災課 75-3643
soumu-bousai@town.yamakita.kanagawa.jp
議会事務局 75-3653
gikai@town.yamakita.kanagawa.jp
健康づくり課 75-0822
kenkou-c@town.yamakita.kanagawa.jp
清水支所 77-2404
bran-simizu@town.yamakita.kanagawa.jp
三保支所 78-3006
bran-miho@town.yamakita.kanagawa.jp